

浦河の気象条件を生かして

「夏いちご」で農業をはじめませんか

浦河町の「いちご」生産は、平成16年度にスタート。農家の皆さんの地道な努力により、平成22年度販売額が1億円を超えました。現在、いちご栽培のマニュアルも確立されてきており、誰もが安心して取り組むことができる作物です。



直近5カ年のいちご生産の状況（浦河町全体）

年度	農家数	ハウス棟数	生産量	キロ単価	販売総額
平成16 (初年度)	6戸	26棟	約15㍏	1,580円	2,475万円
平成19	7戸	42棟	約49㍏	1,567円	7,695万円
平成20	8戸	49棟	約48㍏	1,727円	8,411万円
平成21	7戸	56棟	約48㍏	1,943円	9,343万円
平成22	7戸	54棟	約49㍏	2,013円	10,065万円
平成23	8戸	56棟	約56㍏	2,191円	12,291万円

平成22年度のいちご生産で販売額が1億円を超えた

町では、平成16年度から夏の涼しい気象条件を生かした、ハウスでのいちごの高設栽培に取り組んできました。当時、農家数6戸、ハウス26棟、生産量約15トンからはじまり、平成23年度には農家数8戸、ハウス56棟、約56トンまでに増えました。また、販売キロ単価も平成16年度では約1500円でしたが、平成23

年度では約2100円に上がり、町内全体のいちご販売額は、平成22年度に1億円を超え、平成23年度は約1億2200万円となりました。

夏いちご「すずあかね」のブランド化を目指す

ハウスを使つてのいちご栽培に取り組んだ平成16年度は、「きみのひとみ」など3品種からはじまって、平成18年度から10品種の栽培を行い、浦河の気候にあった品種の比較や栽培法の試験を重ねた結果、平成21年度からは「さがほのか」という冬いちご、「ほほえみ家族」、「すずあかね」の2品種の夏いちごを栽培し、主にケーキなどの加工用として、大阪、名古屋などへ出荷しています。

現在、夏場に使用する国産いちごが足りないことから、アメリカなどの輸入に頼っており、新鮮で高品質な国産夏いちごの需要は高くなっています。特に町内で生産されている「すずあかね」は、市場の評価が高く、将来性のある作物となっており、この夏いちごのブランド化を目指し、経営の安定、農業の担い手不足の解消などを図りたいと考えています。



グリーンサポートのハウス団地 (富里 20 棟)



グリーンサポートのハウス団地 (向別 19 棟)

「夏いちご」で新たな就農をはじめてみませんか

平成24年度より新規就農に対する国の支援制度がスタート。研修や就農に対して青年就農給付金として最大150万円など、財政的な支援が充実されました。これにより、新規で就農をしたい人でも参入しやすい環境となりました。

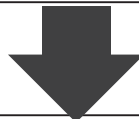
新規就農支援センターが全面的にサポートします

浦河町と農業関係機関・団体が連携し「新規就農支援センター」を平成16年に設置。研修の受け入れから研修中の指導・助言、就農後のサポートなど、地域が一体となって新規就農者を支援しています。また、新規就農者に対しての支援制度などの相談も受け付けています。

就農支援制度 (研修から就農まで)



	内容	支援制度 (最長2年間)
研 修	最長2年間の基本的な農業知識や技術、いちご栽培から生産までを修得します 【研修先】 農業大学校、花・野菜技術センター、先進農家(指導農業士など)	<ul style="list-style-type: none"> ●青年就農給付金(研修) 45歳未満の方で、年間最大150万円 ●研修支援補助金 40歳未満の方で、月額8万円 ●就農研修資金(貸付金) 65歳未満の方で、年間最大180万円



	内容	支援制度
就 農	▶就農先◀ ハウス団地で既存のハウスをリースでき、すぐ就農できます(最長5年間) ※標準的ないちご農家の収入状況は、夫婦2人で5棟のハウス(500坪)の場合は、売上約1,100万円(所得にして約400万円)	<ul style="list-style-type: none"> ●青年就農給付金(最長5年間) 45歳未満の方で、年間最大150万円 ●就農支度準備金補助金 40歳未満の方で、100万円 ●経営安定化補助金 65歳未満の方で、年間最大100万円